

のウゴツクバネウツギ-コナラ群落は、この下位単位と同一の植分と考えられる。

#### C. ハクウンボク-コナラ群落

##### *Styrax obassia*-*Quercus serrata*-Gesellschaft

秋田県田沢湖付近で調査された植分は、ウゴツクバネウツギ-コナラ群落の区分種を全く欠き、ハクウンボク、アブラチャンにより区分されるので、一応、ハクウンボク-コナラ群落としてまとめられたが、調査数が少ないこと、区分種が弱いことなどを考慮すると、更に、今後の詳しい調査検討を要する群落である。

山形形付近のコナラ林については筆者は未調査である。斉藤(1975)の蔵王山系の西斜面のコナラ林の調査報告によると、山形盆地や斜面の下部のコナラ林は、ハイヌガヤ、オクノカンスゲ、シュンランなどが優占していることから見て、秋田のミチノクホンモンジスゲ下位単位につながる植分か、あるいは、典型下位単位になるものと思われるが、組成表がないので確かなことはつかめない。今後の調査研究が必要である。

以上両群落ともにミヤマガマズミ、チゴユ、カシミザクラ、エゴノキ、クリ、タチシオデなど多数の種および区分種として、イヌシデ-コナラ群団にまとめられる。

〔新刊紹介〕森和男「カラーブックス 洋種山草」A 6判 151頁 保育社発行(1981年)、500円。

山草愛好家が増え各地に同好会が生まれ、全国的な交流が盛んになって各地の山草が収集栽培されるこの頃である。国内の山草だけで満足できない人は外国の山草を求めて際限がない。国際交流も盛んになった現在外来の山草の栽培も各地に定着しつつある現状にもかかわらず、これら山草についてのガイドブックは少ない。本書はこれを補うものとして充分とはいえないまでも一般向の書として大いに役立つ。

著者は日本ロックガーデン協会の事務局を担当し現在八ヶ岳山麓で導入植物の馴化栽培に当たっておりその豊富な経験に基づいて外国より導入された山草の中から代表的なもの83種をとりあげてカラー写真や図版に説明を加えて紹介している。その鮮やかな色彩と形態は山草愛好家にとって垂涎的であり文字どおりガイドブックにもなることであろう。一般の人が見ても美しく楽しい。

また本文では、東欧圏ブラハの山草界は東西の稀

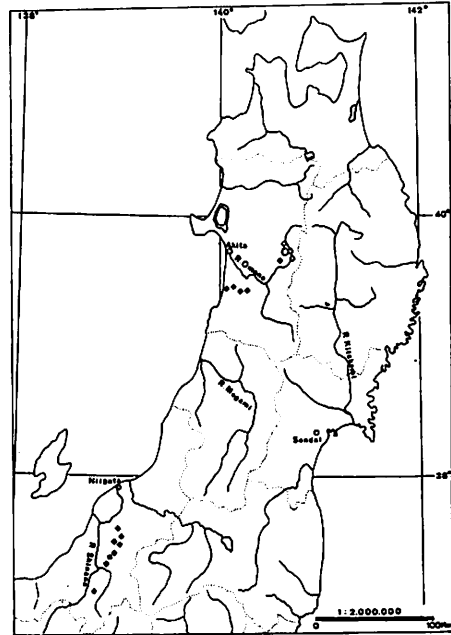


Fig. 2. ウゴツクバネウツギ-コナラ群落他調査地点図  
Lage der Vegetations-aufnahmen des *Abelia spathulata* var. *stenophylla*-*Quercus serrata*-Gesellschaft, etc. in der östlichen Japan.

◆印: ウゴツクバネウツギ-コナラ群落

◇印: ハクウンボク-コナラ群落

品を集めた豊庫であることとか、意外に知られていない山草の性質とか、世界各地で出会ったすばらしい山草などについてとか、トピックやエピソードが描かれており誰もが興味をもって引き込まれていく。

栽培の実際については、その自生地を知ることの大切さ、現在栽培されている洋種山草はじょうぶなものであまり細かい自生状況を知らなくてもおそらく容易に生育するだろうこと、用土、鉢、実生づくりのこと、また植物の輸出入について注意すべきことや洋種山草の和名のことなど広汎に亘り簡潔に述べられており、一般の人にも理解しやすく参考になることが多い。(S. S.)

〔植物ニュース〕 42. ネビキミヤコグサ *Lotus uliginosus* Schkuhr

霧が峯池のくすみ、1980年8月6日初見。セイヨウミヤコグサに比して一花序の花数が多く、茎は中空、根元から分れる枝が多い。かつて松本市女鳥羽川にワタリミヤコグサが現われたが河床整備で消えた。果してこれもどうなるだろうか。(浅川富雄)